



創作活動で作った「魔除けすだれ」。ふるさと自然塾にある笹を切って作った手づくりのすだれに張り子のお面を飾りました。

北上市立 第35号 鬼の館だより



流しそうめん体験



いかだ遊び



鬼の金棒づくり

夏の思い出鬼っこ合宿!! “ホップステップ鬼っこキャンプ”

毎年の恒例となっている夏の行事「鬼っこ合宿」。今年は7月26日から28日にかけて、奥州市衣川区のふるさと自然塾にて行いました。今回は「自然とのふれ合い」をテーマとし、現地の竹を使って作った流しそうめん体験やいかだ遊びなどのたくさんの野外活動を通し、自然の大切さや素晴らしさを体感してもらいました。残念ながら合宿中は天気恵まれず行えない活動もありましたが、市内小学校から集まったお友達と協力し合い、元気いっぱい活動に取り組み楽しく合宿を終えることができました。

鬼の館 2011 上半期をふりかえって



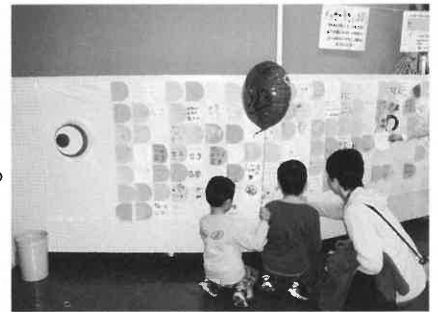
↑タイヤが変形!? おもしろ自転車

こどもの日わくわくイベント 5/5 ～がんばろう! 岩手～ (木)

毎年5月5日に行っているこどもの日「わくわくイベント」は、気軽にできる創作活動を通して“鬼”に親しんでもらおうという目的で行っています。

今回は、恒例の「鬼に変身」、「お面に色付け」、「ようかい風船」、北上少年少女発明クラブさんによる「工作コーナー」に

加え、「おもしろ自転車」、東日本大震災で被災された方々へエールを送る「メッセージこいのぼり」や募金箱を設置し開催することとなりました。当日館内は、800人を超える来館者であふれ、たくさんの方々から被災者への励ましのメッセージが寄せられ、大きな「メッセージこいのぼり」が出来上がりました。



↑「元気を出してがんばろう」など皆さんから寄せられたメッセージこいのぼり

第17回大乘神楽大会 6/12 (日)

今年は7保存会の出演による14演目を披露いただきました。今年は市内の高齢者福祉施設をご利用される方々や被災地の方々をご招待し、特設会場の席が満席になるほどの盛況ぶりとなりました。中には今回初披露となった小学生や舞手が夫、オカド(囃し方)に妻という若夫婦の姿もあり、若い世代や新しい層への伝承が広がりをみせています。



↑神を導き出そうと様々な神事を繰り広げる“天の岩戸”。岩戸が開き来場者からは拍手喝さい!! (和賀大乘神楽)

<出演大乘神楽保存会>

村崎野大乘神楽・宿大乘神楽・上宿和賀神楽・二子築館神楽・和賀大乘神楽
長清水山伏神楽・下条和賀大乘神楽



↑今年東日本大震災で亡くなられた方々のために公演の始めに念仏供養が行われました。(岩崎鬼剣舞)

芸能公演 4月～10月まで 第4日曜日 午後1時30分から

4月から10月までの第4日曜日に開催している鬼の館芸能公演。市内の各保存会の協力を得て約1時間のステージをご鑑賞いただいています。当館学芸員の詳しい解説付き、鑑賞無料ですのでお気軽にご覧ください。



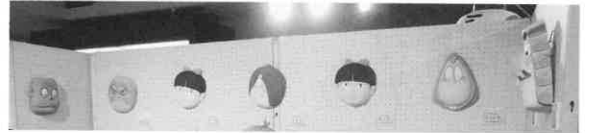
↑神とされる“パロンケケット”や“ブラフマー”のお面などを公開しました。

収蔵資料展
千種万様 22 ～鬼文化ニッポン～
鬼神共演～国内外の鬼の神～

3/6
(日)～
8/28
(日)

昨年度から引き続いたこの特別展では、国内外の“鬼”や“神”を表現した様々な「仮面」や、寄託・寄贈資料等を合わせてご紹介しました。

仮面は信仰のよりどころとして、また芸能の中で一定の役柄を表現するものとして、仮面が使われてきた精神世界は国や各文化によって



↑「ゲゲゲの鬼太郎」に登場するキャラクターの張り子面をズラリと展示。

多種多様です。ここでは日本のものから世界のものまでのお面、寄託資料のゲゲゲの鬼太郎に登場するキャラクターのお面等を展示し、様々な精神性を探るものとして展示公開しました。

夏休みワークショップ

8/2・8/4・8/9・8/11
(火) (木) (火) (木)

当館のワークショップは“鬼”や“妖怪”にちなんだ工作づくりを楽しんでいただこうと開催しています。

今回は「魔除けすだれづくり」「妖怪うちわづくり」「鬼グラスエッジング」の3コースに挑戦してもらいました。さて、自分が想像する“鬼”をうまく描けたかな??

＜魔除けすだれづくり＞



↑ねずみ男とおいなりさんの張り子の面を作ったよー!

＜妖怪うちわづくり＞



↑兄弟仲良くうちわ作りに参加。すてきなオリジナルうちわができました♪

＜鬼グラスエッジング＞



↑コップに絵を描くってむずかしい…。

出前講座

－和紙面づくり－

鬼の館「和紙面づくり」はいつでも気軽に体験することができます。今年の出前講座では、鬼剣舞の踊りやみちのく芸能まつりのパレードに使用する、地域の文化祭に出品するなどといった理由で作製されました。子ども会行事やふれあいデイサービスなどからの希望が多く、みんなで教え合ったり交流を深めながら楽しくお面づくりをしています。お面づくりは、お面の型抜きから色ぬりまで（3～5時間）、既製面に色をぬる（1～2時間）の2種類から選ぶことができます。館内もしくは地域の集会所、学校等で体験できるのでご希望の際は、お気軽にお問い合わせください。



今年4月から
就任いたしました!

ごあいさつ

「開館18年目を迎えて」 館長 菊池 清満

このたび4月1日の人事異動により前高橋館長の後任として着任いたしました。鬼の館館長の辞令をいただいたとき、これまで経験した業務とは全く別の世界であり、当館の命題でもある鬼については、怖く恐ろしい想像上の創り上げられた“もの”程度の薄学で知識のない自分にとって、この重責に堪え得るか非常に不安でしたが、与えられたチャンスと受け止め旧和賀町出身の私にとっては、郷土の歴史・文化を学ぶ絶好の機会と考え、喜んで拝命し、早6ヶ月を経過しました。

この間、素晴らしいスタッフに恵まれ、また地域の方々や芸能団体など関係各位の皆様にも励まされ支えていただき、充実した毎日を過ごしております。

さて、当館も平成6年開館以来、今年で18年目を迎えました。この間、中国の仮面展、ゲゲゲの鬼太郎ワールドなど多彩な企画展や特別展を開催し、全国各地から60万人弱のお客様にご来館いただいております。これは全国でも稀な「鬼」のテーマ博物館という興味や珍しさもあってのことと思いますが、さらにはなによりも地域の方々や芸能関係団体など関係各位の心強い協力があったることと思っております。

当館では、「鬼とは何か」を探ることを目的に、企画展、特別展をはじめ、鬼学講座や鬼っこわんぱく講座、また芸能公演、大乗神楽大会、福豆節分会などさまざまなイベントを開催し多くの観覧者や受講者の参加をいただいているところですが、本年3月の悲しい未曾有の大震災以来、東北、岩手、北上市への観光客が激減しており、当館も来館者が減少しておりますが、これからも市民に親しまれ気軽に立ち寄れる施設として、より一層の事業企画等に努力してまいります。

また、この地域は夏油高原温泉郷等、四季折々自然環境に恵まれた観光拠点でもあり、「夏油高原いで湯ライン」の玄関口としての重要な施設として、PRを行い、リピーター等の掘り起こしや地域の温泉業者及び関係団体等ともお互いに連携した取り組みなどの誘客活動が滞在型観光にも繋がると考えておりますので、そのための一助として当館は文化施設のみに固執せず、観光と一体的な施設としての役割を果たしていかなければと考えており、職員共々一生懸命頑張って努めて参りますので、今後とも皆様の変わらぬご指導ご協力を賜りますようお願いいたします。



主任学芸員 後藤 美穂

4月の人事異動により北上市立博物館から参りました。「鬼」については一からの勉強ですので、お客様にご不便をおかけすることもしばしばですが、諸先輩方が蓄積された資料と実績に学びながら一歩一歩前進したいと考えています。

鬼の館は全国各地のお客様に支えられていますが、特にも地域の皆様にご支援いただいております。一度と言わず何度でも気軽に訪れることができる、来るたびに新しい発見がある、そんな市民の皆様にも親しまれる施設目指して頑張りたいと思います。何卒ご指導賜りますようお願いいたします。

平成23年度下半期のお知らせ

- **企画展・特別展** 「親子で楽しむ仮面の世界」 9月23日(土)～11月26日(土)
ワークショップ「親子で楽しむ仮面作り」
10月15日(土)・11月5日(土) 各日10時～12時 先着30名
(※できあがった作品は企画展示室にて写真展示をします。)
「よろず伝承展～鬼と節供人形」 12月17日(土)～3月11日(日)



- **鬼学講座**

仮面の原像 (鈴木明美氏)	11月3日(木)	午後1時45分～3時15分
仮面の考古学 (相原康二氏)	11月20日(日)	午後1時30分～3時
能面の発達と種類 (菅原夢玄氏)	12月18日(日)	午後1時30分～3時
仮面芸能 鬼剣舞 (熊谷 保氏)	1月22日(日)	午後1時30分～3時
儀礼習俗と仮面 (斎藤壽胤氏)	2月12日(日)	午後1時30分～3時

- **芸能公演** 黒岩鬼剣舞 10月9日(日) □内鬼剣舞 10月23日(日)

- **鬼っこわんぱく講座** 鬼剣舞体験 1月8日(日)・15日(日)・22日(日)・29日(日)
2月4日(土)・5日(日)

- **鬼ッズ・プレイミュージアム** 冬休みワークショップ 12月25日(日)
1月7日(土)・11日(水)
・13日(金)・15日(日)



- **福豆鬼節分会** 平成24年2月5日(日)予定
※鬼剣舞体験と冬休みワークショップは日程が変わる場合もありますのでご注意ください。

鬼学ノート

仮面考

鬼の館だより34号から続く考察の“中編”です。

『仮面』という言葉の派生時期は、三世紀以降に中国で生まれ、十世紀以降には国内でも使用された言語(延喜式卷13大舎人寮:927)とされている。しかし、『仮面』自体の派生は言語の使用時期からさらに遡り、ヨーロッパの旧石器時代(約二万年前)から中石器時代(約八千年前)とされ、国内においても縄文時代まで遡り、まさに仮面の実例が考古資料として縄文時代の遺跡から発見されている。

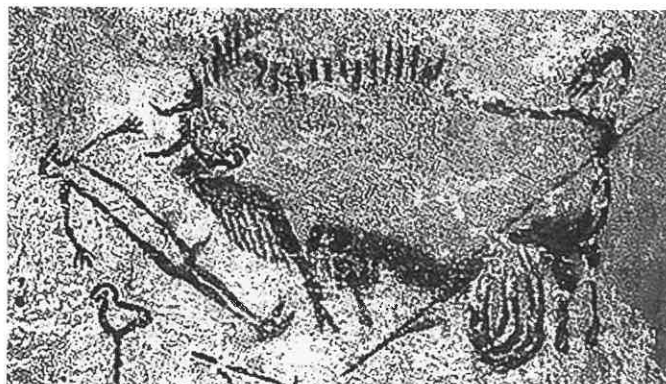
縄文時代中期末から晩期末葉にかけての時代観を有す遺跡から、国内最古の仮面として貝製仮面(熊本県:阿高貝塚)がある。その後、土製仮面(岩手県:蔭前遺跡・鶯宿遺跡)の発見があり、さらに仮面を着けたと考えられている大型土偶(岩手県:萩内遺跡・青森県:亀ヶ岡遺跡)や仮面の部品として考えられている土製資料(岩手県:八天遺跡・岩手県:立石遺跡)などが実例として発見され報告されている。

また、世界的視野で仮面の実例を尋ねると約八千年前のヨーロッパ中石器時代の遺跡から骨を加工して作られた骨製品としての仮面が発表されている(ドイツ:ホーエンファイヒェルン遺跡)。この仮面は、鹿の角付き頭頂骨を加工したもので、被りものとして使用されたものであり、食料としての獲物と狩猟する側の人との仲介役であり、託宣者でもある呪術者としてのシャーマンが、依代となるための仮面であると解釈されているものである。仮面の実例資料は、国内も同様であるが、形作られる素材が貝殻や骨及び樹皮や獣皮並びに土製であったりする。これら素材で作られた仮面は、新しい時期のものは依存度が高く、一般的に実例資料として発見される場合が多いが、考古資料のように土中内に埋もれた状態で発見される場合は、埋もれていた土性環境によって依存度に大きな影響を受け、一般的には酸化や腐敗することで消滅することが多く、発見例も少ないのが現況である。しかし、世界には人の居住区となった洞窟の壁に描かれた線刻画や彩色壁画が発見されている。これらの絵は描かれた絵姿などから動物と人との関係を呪術的精神感で捉え、人から動物への仮装絵として考えられ解釈されているもので、シャーマニズム性に富んだ仮面の存在を物語る原

姿的な壁画資料とされている。

最古とされる壁画には、約二万年前とされるレ・トロワ・フレール洞窟(フランス)の壁画がある。この壁画は頭頂部にトナカイの角が付いた被り物を付け、さらに身体には鹿の皮で身を覆った人の姿とされ、別の壁画には、頭部に牛の角、身体には動物の毛皮を纏った絵姿が描かれていてこの絵もまた、人の仮装絵として解釈されている。

この他、嘴を有し、鳥の頭を持ったラスコーの洞窟壁画(フランス)や同様の壁画と観察されている鳥の絵姿を有すアルタミラ洞窟壁画(スペイン)などが発見されて、同様に解釈されている。これら壁画の解釈によれば、人の糧となり捕獲された主体的動物の精霊と捕獲し糧とした人との関係の中で、動物の再生復活と、さらなる次の捕獲を動物の霊に約束させるという儀式の様子を描いたものとされ、この絵に描かれる動物の仮装絵姿は両者の境界的な位置関係にある超越的な力を有す呪術師、シャーマンの姿であるとされている。いわゆる前述したラスコーの洞窟壁画は、超越的な力を有すシャーマンが、鳥の顔の仮面を被り、鳥杖を持つことによって精霊の世界に入り、動物の霊と交信し、両者の精神世界を共有することによって、死んで糧となっていった動物が将来新しい身体をもって再び生まれてくることを約束させ、さらに、動物の精霊に次回の収穫についても約束させる、という再生復活の儀式と収穫予祝の儀式を併せもつ内容を物語るものであるとする解釈が、一般的な見解となっている。これらの解釈のもとで『仮面』の原姿を考えた場合、仮面としての実例は現在に存在していないが、壁画の絵姿から想定される『仮面』の使用形態についての存在は論考上、想定し得る事象であると考えられよう。



↑「Google」ラスコーの洞窟壁画 画像より

次号、「下編」に続く

文責：北上市立鬼の館 鈴木 明美

鬼の里だより

●企画展・特別展

- <特別展> 「平成22年度収蔵資料展
千種万様22～鬼文化ニッポン～
鬼神共演～国内外の鬼の神～」
3月6日(日)～8月28日(日) 7,995人
- <特別展> 「親子で楽しむ仮面の世界」
9月23日(金)～11月26日(土)

●大乗神楽大会

6月12日(日) 295人

●鬼ッズ・プレイミュージアム

4月1日～9月30日

- 和紙面づくり 参加者 52人
出前講座9件 参加者 335人
- <夏休みワークショップ>
魔除けすだれづくり 参加者 38人
鬼グラスエッジング 参加者 22人
ひえひえ妖怪うちわづくり 参加者 35人

●鬼の館芸能公演

- | | | | |
|-------|----------|----|------|
| 4月24日 | 北藤根鬼剣舞 | 観客 | 108人 |
| 5月3日 | 鬼柳鬼剣舞め組 | | |
| | 岩崎おなご鬼剣舞 | 観客 | 134人 |
| 5月4日 | 岩崎鬼剣舞 | 観客 | 208人 |
| 5月22日 | 二子鬼剣舞 | 観客 | 110人 |
| 6月5日 | 鬼柳鬼剣舞 | 観客 | 181人 |
| 6月26日 | 谷地鬼剣舞 | 観客 | 112人 |
| 7月24日 | 御免町鬼剣舞 | 観客 | 106人 |
| 8月14日 | 岩崎鬼剣舞 | 観客 | 155人 |
| 8月28日 | 相去鬼剣舞 | 観客 | 128人 |
| 9月25日 | 滑田鬼剣舞 | 観客 | 162人 |

●鬼っこわんぱく講座

- こどもの日わくわくイベント
5月5日(木) 参加者 873人
- 鬼っこわんぱく合宿「ホップステップ鬼っこキャンプ」
in衣川ふるさと自然塾
7月26日(火)～28日(木) 参加者 31人

利用案内

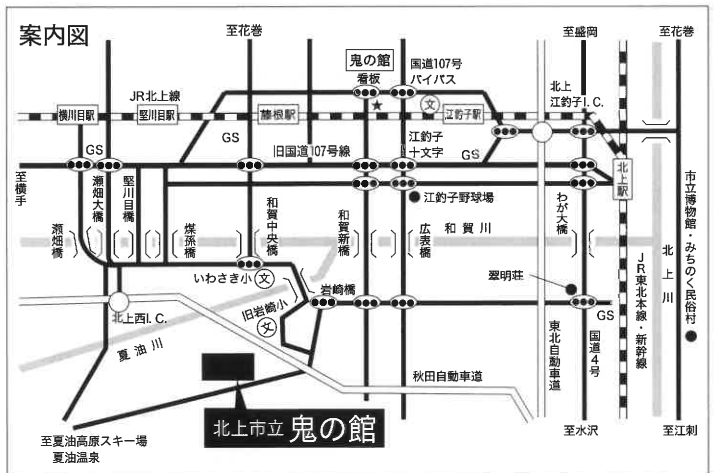
開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

- 休館日
- ・12月～3月の月曜日
 - ・12月～3月の国民の祝日の翌日
(土・日・月曜日の場合は火曜日)
 - ・館内整理日(11月27日～11月30日)
 - ・年末年始(12月28日～1月4日)

入館料	一般	500円(400円)
	高校生	240円(180円)
	小中学生	170円(120円)

- ()内は20人以上の団体料金。
下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。
- ・学習活動で申請利用する場合

- 交通案内
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車
徒歩10分。
 - ・JR北上駅より車で20分。
 - ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第35号 2011.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508